1,790×1,420／看板

東海道（京街道）枚方宿案内図

TOKAIDO KYOKAIDO Hirakata-shuku Guide Map

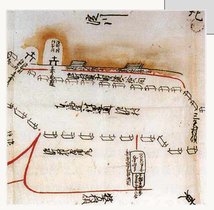
市立枚方宿 鍵屋資料館 ❶

Hirakata-shuku Kagiya Museum

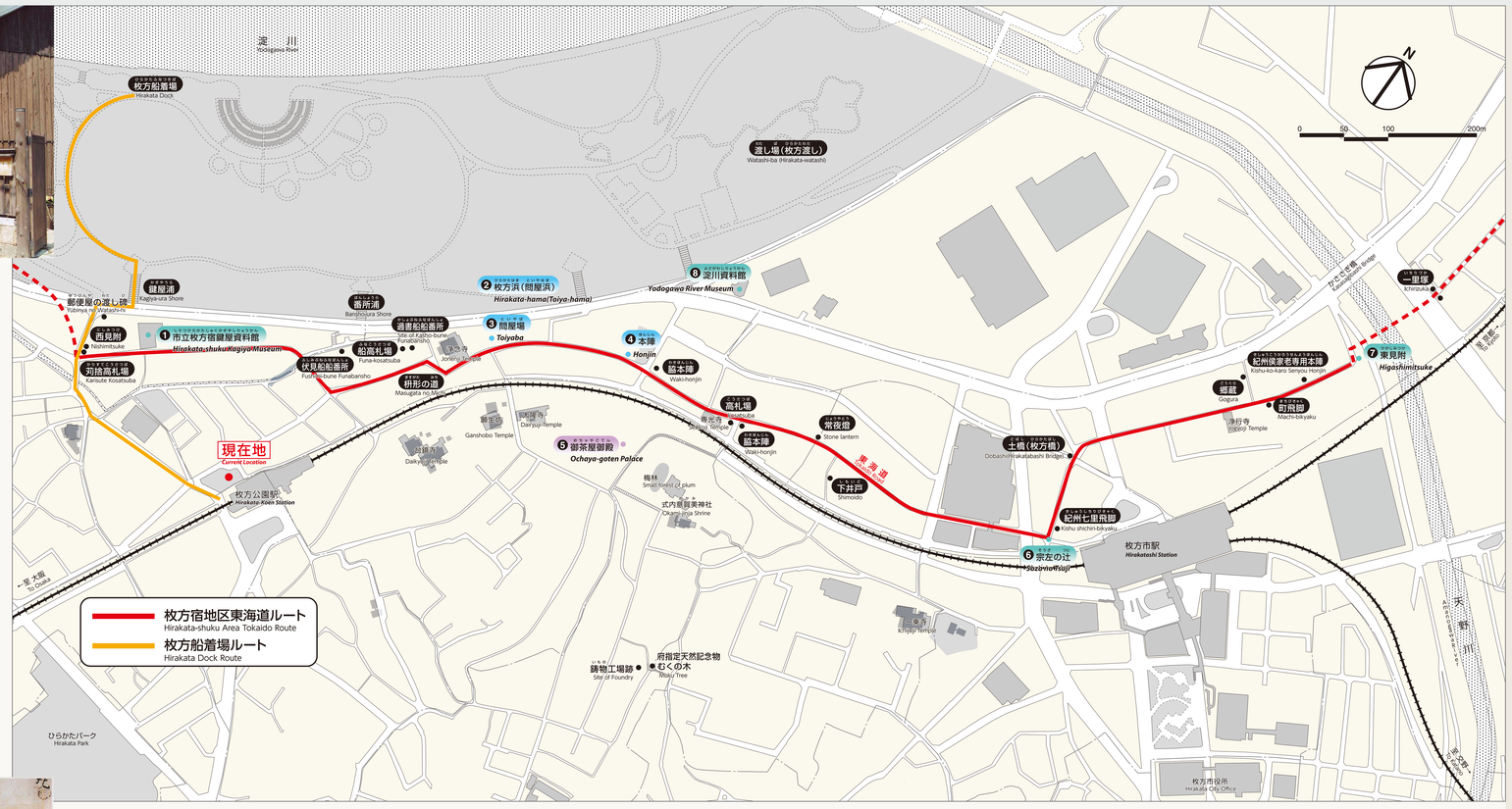
「鍵屋」は、約400年前に創業されたと伝えられる枚方宿の代表的な船宿でした。

建築年代が19世紀の初めとされる主屋は、当時の枚方宿の面影を留める貴重な建築物として、平成9年に枚方市の指定有形文化財になりました。

江戸時代の姿に復元した主屋と別棟展示コーナーでは、枚方宿の歴史がわかりやすく紹介されています。



「番所浦絵図」



歴史が息づくまち　枚方宿

徳川幕府は、17世紀初頭から全国的に街道整備・宿駅設置を進め、東海道の延長として伏見・淀・枚方・守口の4宿を設けました。

枚方宿は、東見附から西見附まで797間（約1.5km）、問屋場・本陣のほか旅籠や商家など多くの町家が軒を連ねて宿場町としての賑わいを見せました。

紀伊徳川家は、藩主吉宗が八代将軍に就いた後、六代藩主宗直の寛保元年（1741）の参勤交代から、大坂・京に将軍家の権威を示すために東海道を通ることが多くなり、参府・帰国とも枚方宿に宿泊することを常としました。

また、枚方は淀川水運の中継港で米や河内木綿、菜種など物資の集散地であったため、在郷町としても繁栄し人と物が行き交う水陸交通の要衝として重要な役割を果たしました。

淀川舟運 枚方浜（問屋浜） ❷

Yodogawa Shuun Hirakata-hama(Toiya-hama)

淀川は京・伏見と大坂を結ぶ重要な交通路で、往時には三十石船など貨客船合わせて1,000艘以上が行きかい、これらの船の監視施設として船番所が置かれました。

また、三十石船の客相手に飲食物を商う煮売茶舟は、その売り言葉から俗に「くらわんか舟」と呼ばれました。

問屋場 ❸

Toiyaba

問屋場は、人馬の継立、公用旅行者の宿の手配など、宿駅の事務一切を取扱い、民間の輸送にも関係していました。問屋役人（宿役人）が常駐していました。

「宿駅問屋場ノ図」

本陣 ❹

Honjin

本陣は、大名・幕府役人・公家など身分の高い人たちが休泊するための施設でした。一般の旅籠と違い、門や玄関・式台・上段の間などが設けられる大規模で格式の高い建物でした。

万年寺山と御茶屋御殿 ❺

Mt. Mannenji and Ochaya-goten Palace

万年寺山に位置する式内・意賀美神社は、枚方八景のひとつに数えられ、境内にある梅林が有名です。

このあたりには、豊臣秀吉の御茶屋御殿があったと伝えられています。

宗左の辻 ❻

Soza no Tsuji

東海道（京街道）と磐船街道の分岐点でした。製油業を営む角野宗左家の横にあったことから、この名前が付きました。

東見附 ❼

Higashimitsuke

枚方宿の東側の玄関にあたり、近くには七夕伝説の天野川が流れています。

「河内名所図会」「天川」

淀川資料館 ❽

Yodogawa River Museum

淀川の治水・洪水の記録や舟運、庶民文化の歴史などが紹介されています。

今も残る町家

街道筋には町家が点在し、出格子や虫籠窓、袖うだつなど重厚な佇まいが宿場町の面影を今に伝えています。

English guide
한국어 안내
中文 指南